

## 「半田良平の皇国翼賛的時事詠」

紀元2600年（神武天皇即位の年 BC660年～明治5年制定）奉祝歌集

（昭和15年、1940年）・・・昭和短歌の曲がり角

\* 紀元2600年といへいにしへの胸にしたしく昨日の如きを・・・窪田空穂  
大日本歌人協会解散、短歌は軍人の支配下に入った。

窪田空穂 「短歌研究」 S16、1

- \* 我をおきて天皇のみ民なきごとくものいふ人よいひを慎め
- \* 真心を照らし合ふべく歌つくる歌びとに何の指導のあらむ
- \* この国を進め来たりし祖先らの心の外の歌を誰詠む
- \* 歌びとは睦み励まし相共に歌詠めば足る何ありといふや
- \* あるべくして在りしものぞと我は観る憤ろしくも無からしめたり

昭和16年12月8日午前7時NHK臨時ニュース「臨時ニュースを申し上げます。臨時ニュースを申し上げます。大本営陸海軍部午前6時発表。帝国海軍部隊は本8日未明、西太平洋においてアメリカ、イギリス軍と戦闘状態に入れり。」

\* 大君の御楯とたたに思う身は名をも命も惜しまさらなむ 山本五十六

窪田空穂 「相継ぐ捷報」5首より 読売新聞

- \* 久しくも世界一なる民族と信じたりしを今證せり
- \* 大御言畏かれどもみ民我心いやしく唯に憎きを

昭和17年6月 日本文学報国会設立 要項 小林邦子「半田良平の生涯」より

（目的）本会は全日本文学者の総力を結集して、皇国の伝統と理想とを顕現する日本文学を確立し、皇道文化の宣揚に翼賛するを以て目的とす。

（事業）皇国文学者としての世界観の確立、文芸政策の樹立並に遂行への協力、文学による国民精神の昂揚、文学による国民的教養の向上、我が国の古典の尊重普及と古典作家の顕彰、文学を通してなす国策宣伝、対外文化事業への協力、日本語の純化並に其の対外普及に関する事業など・・・半田良平は評議員に名を連ねた。

### 半田良平の翼賛歌

- \* 天が下一つの宇となる日まで抗ふものは撃ちてしやまむ S18年3月号日本短歌  
「男子よ起て」翼賛図書刊行会 S18年2月「軍神につづけ」
- \* 兵となるもならぬも軍神の後を継ぐべく男の子らは起て
- \* 軍神のこころ頒けもち男の子らの行きゆく前に障りあらめや
- \* 皇国にいのち享けたる幸いに応ふる道はただ一つのみ  
「宣戦の詔勅を拝して」緊急特集 1942年1月号 改造社「短歌研究」

### 半田良平

- \* 堪へたへて今日に及べる日本を何とかも見る亜米利加よ英吉利よ

<幾世し積まば国は栄えむ・・・歌人たちの敗戦>

昭和短歌の精神史 第二部3 P247 三枝昂之著「角川ソフィア文庫」より